

久邇くいにの新あらたしきみやこ 京みやこを讀よむる歌うた二首 并あはせて短歌たんか

一〇五〇番

現あきつ神かみ 我わが大君おほきみの 天あめの下した 八島やしまの中うちに 国くには
しも 多おほくあれども 里さとはしも さはにあれども
山並やまなみの 宜よろしき国くにと 川かはなみの 立たち合あふ里さとと
山背やましろの 鹿脊山かせやまのまに 宮柱みやばしら 太敷ふとしきまつり 高たか
知しらす 布当ふたぎの宮みやは 川かは近ちかみ 瀬せの音おとぞ清きよき 山やま
近ちかみ 鳥とりが音ねとよむ 秋あきされば 山やまもとどろに
さ雄鹿をしかは 妻呼つまよびとよめ 春はるされば 岡辺おかへもしじ
に 蔽いはほには 花咲はなさきををり あなおもしろ 布当ふたぎ
の原の いと貴たふと 大宮所おほみやどころ うべしこそ 我わが大君おほきみは
君きみながら 聞きかしたまひて さすたけの 大宮おほみやこ
こと 定さだめけらしも